



施設園芸の発展に向けて

市村 拓野 三菱樹脂(株)
産業フィルム開発センター

私は、三菱ケミカルホールディングスの一員として、入社以来、農業資材の開発に携わっております。

三菱ケミカルホールディングスでは、次世代アグリビジネスを創造事業に位置づけ、各種の機能性農業用フィルム、栽培システムをはじめ、太陽光利用型植物工場の販売に取り組んでいるほか、中国において農業資材製造販売の新社を立ち上げるなど、積極的に施設園芸分野への取り組みを深めております。

世界的な気象変動や人口増加を背景に、食料品を効率的に生産するための技術開発に対するニーズやそれに関連するビジネスは更に増えると考えられます。

ここでは、弊社グループの農業資材開発の取り組みについて御紹介したいと思います。

当開発センターでは、農業用塩化ビニルフィルム「ノービエースみらい」、農業用ポリオレフィン系フィルム「ダイヤスター」などの施設園芸用フィルム資材を中心として、マルチ資材（一般マルチ、生分解性マルチ）、散水チューブ、ネット資材、不織布資材等の研究開発を実施しております。農業用フィルムには、近年の担い手不足、高齢化により、長期使用可能な商品が求められております。また、気象温暖化に伴い、夏場の遮熱遮温といった問題も生じて来ております。

それに対し、当研究所にて培われた多様な技術を農業資材分野に転用し、今までに無い機能性を付与するような試みを進めております。農業資材分野としても許容可能な、コストと性能のバランスを取った製品を開発すべ

く、商品の技術的サポートはもちろん、三菱ケミカルホールディングスグループの他分野からの技術転用、農水省の研究プロジェクトへの参画等、基礎的な側面からの技術開発にも積極的に取り組んでおります。

さらに、養液栽培技術の開発も実施しており、人工光・閉鎖型苗生産システム「苗テラス」、葉菜類を中心とした養液栽培システム「ナッパランド」、トマトの低段密植による養液栽培システム「トマトリーナ」等を取り扱っております。

弊社グループでは、これらの部門が協力してそれぞれの役割を果たしながら、資材&栽培システム両面から開発に取り組んでいます。

近年は、病虫害防除に寄与可能なフィルムの技術開発や、透過光のコントロール、作業環境を改善する資材の開発など、取り組むべき課題は多岐にわたっております。

昨今、農業労働人口の高齢化に加え、FTA、EPA、TPP等、国内の農業分野を取り囲む環境も大きな変化が予測されております。

従来の農業資材開発におけるノウハウを基礎にして、これからの時代に要求される新たな農業資材・機材のあるべき姿を探求し、機能性の向上と、低コスト化のバランスを目指します。

弊社グループは、三菱ケミカルホールディングスグループが提唱する“KAITEKI”の実現を目指し、生産者に役立つ農業資材の新商品開発や太陽光利用型植物工場などの事業拡大を通じ、「次世代アグリビジネス」を今後も推進してまいります。